



福井赤十字病院 図書室

としよだより



本年も図書室を よろしくお願いたします



リラックスタイムに気軽に読める本もあります



今年はホワイトボードに情報も掲示していきます



共有のネットワークPCもございます

職員の皆様、今年も図書館をよろしくお願いたします！
業務に関する、医療看護文献を中心とした情報収集、
書籍の閲覧・貸出などをお気軽に利用していただけるよう
頑張っていこうと思っております。

まだ図書室を利用されたことがない方を含め、電子ジャーナルなどの利用方法に関してもいつでも説明いたします。

必要な情報を速やかに入手し、皆様のお役に立てる図書室となるように心がけております。

2022年が
皆様にとって
良い年となりますように。
道は険しくとも
笑いながら歩こうぜ！



おすすめ

おすすめ書籍のご紹介 貸出可能です



「精神看護」2021年11月号
・特集 強制入院の体験を語る

書籍を登録しながら、なんとなく気になって手に取り読み始めたのですが、内容の衝撃に後々休憩時間を使ってまで読了してしまった1冊。神号です。

強制入院の当事者たちによる座談会、身体拘束を課され入院した若い女性の体験記「私は身体拘束を生き延びたのか？」精神科病棟に入院した母への付き添いで出来事や心の推移を現した記事

「薄氷のような連帯」など、全編に渡って読み応えのある内容でした。世の中には「自分には関係ない事」と認識し、深く（ある程度でも）それに対して向き合う機会のない事象はたくさんあると思います。しかしそのような中で「自分がそうだったら」「自分の大切な人がそうなら」という想像力を、わずかでも働かせる事が出来たら…もう少し誰かに寄り添って、向き合って生きていけるのではないだろうか…そう考えさせられる内容でした。



「看護展望」2021 Vol.46 No.13

・特集 東京2020オリンピック・パラリンピック
成功を支えた看護職の活躍

もうしばらく前になりましたが、1年遅れてオリパラが開催されました。開催前のコロナウイルス感染者拡大、それに伴う医療現場の逼迫が報じられるのを見て、僕は開催に対して決してポジティブな感情を持っていません（うちの病院だって受け入れ施設でみんな頑張ってるのに…僕だって音楽イベント活動を我慢して悲しいのに…という気持ちもあり）

そのような中、考えられる感染対策を取りながら（とはいえ、それを遵守しない参加者もありましたが）、オリンピックは開催され、一応の成功の中閉幕を迎えました。

最後までもやもやした気持ちでオリンピックを終えた中、この雑誌の中で触れられていた、あまりメディアでは深く取り上げられることなかったような「現場看護師の手記」で、少しだけ救われた気分になりました。というのも、彼女たちの手記から読み取れたものが「目の前の患者に対して精一杯の看護をする」という確固とした意志だったからです。そのプロ意識が読み伝わることで、自分の中の「仕事観」はどうだろうか…と考えるきっかけとなったのが収穫でした。



新春恒例

おしらせ

その他小ネタ集

さんわんにくみ
はあといろ

今回は図書係からのお知らせとお願いをいくつかオムニバス形式にてお届けします。



①「図書利用カードを入れて下さい」

図書室では、皆さんの雑誌利用料を毎月調査して集計しています。あまりにも利用数（閲覧数と貸出数）が少ないと、来年からの定期購読中止の検討対象になってしまいます。じっくり読まなくても、チラッとでも手に取って目を通された際にはすぐそばにある「図書利用カード」を本棚にあるポケットに投函してください。これを見て「ええやんええやん、読まれてるやん」と判断いたします。

②各種マニュアルなどをご利用ください

入り口入って正面の返却ボックスの横にパンフレットラックがあります。ここには検索ツール・文献ポータルサイト（UpToDateやメディカルオンラインなど）のマニュアルやパンフレットが置いてあります。

今後は書店からのチラシや、その他マニュアル、としょだよりバックナンバーなども置いていけたらと考えております！



ご自由に
お取りください
Take Free



③CDR用のシュレッダーが新しくなりました

昨年末に調子が悪くなり、長らく使用できずご迷惑をおかけしていたCD-R用のシュレッダーを新しくしてもらいました。院内でここにしかない（と思う）設備ですので、皆様どうぞ大切にご使用ください。

また、ごみがいっぱいになったり、使い方がわからない方は最寄りの図書係までお尋ねください。



④その他、今年も頑張ります！

いざという時（文献を探している、どうやって探せばいいかわからない…本を探している…など）気軽に声をかけていただいて、お役に経てますよう頑張ります。不在にしている場合は、メモで置きをもらえれば折り返し対応させていただきます。

「こんなんしてほしいんやけど」「こういうことは出来ないんですか？」など。改善案や提案をいただけますと今後の図書室運営の参考になりますので、声を聞かせてください！



おまけエッセイ

図書係の独り言

第5回

音ヨ鳴り響ケ（オチのない話）



ヨシ!!

皆様、あらためまして新年あけましておめでとうございます。今年も少しでも皆様の病院業務に役立てますよう元気よく頑張って参ります！また何かお調べ事等ございましたら、是非お気軽にお声がけいただければと存じます。また、用事があろうとなかろうと、なんとなくでも図書室に足を運んでいただけるように、心地よい空間の管理と手に取ってもらえるような書籍のおすすめをしていきたいと思えます！コピー機もあるけど、コピー室じゃありませんからね（一年ぶり二度目の主張）！

さて。いったんは落ち着いたかと思った新型コロナですが、オミクロンとやらの登場でまたもやきな臭い雰囲気になって参りました。僕の趣味である音楽イベント開催・演奏活動はまだまだお預けを食らったままの状況が続きそうです。残念ですが、これは仕方ありません。そして僕の作戦はいつだって「いのちだいじに」なのです。ここで医療従事者の頑張りを無駄にするわけにはいかないのですから…とはいえ、さすがに落ち込んでいる僕を見かねてか、遠方の音楽仲間が誕生日プレゼントに銅鑼（ほか打楽器）を贈ってくれました。は!?銅鑼（画像）？いや、生きてさえいればまた音を響かせられる…その日まで頑張ろう！というメッセージであるとポジティブに解釈し、一発銅鑼を叩いた瞬間母親に「やかましわ！」と怒られましたとさ。



ミニサイズだが、十分な音響

おしまい